

2016年（平成28年）

ハタハタ情報 No.1

平成28年9月18日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

－後日にインターネットからもご覧いただけます－↓

マリンネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2016年9月12日～9月14日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深230～300m付近の海域においてトロールを曳網し、ハタハタの採集試験を行いました。7調査点で計34尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 採集状況は昨年を下回る低水準（1マイル曳網あたり平均2.8尾）
- 2歳魚が68%を占め、1歳魚として昨年の漁獲をのばした2014年級の生き残りが主体か
- 成熟状態（来遊時期）は雌の採集が少なく10月調査まで見通し立たず

1. ハタハタの分布状況（図1）

今回の調査も海況は良好で、雄冬沖付近の7調査点でトロールを曳網しましたが、全体的にはスケトウダラの採集が多くなり、ハタハタは1マイルあたり2.8尾と、近年では一昨年に次ぐ少ない採集量となりました。

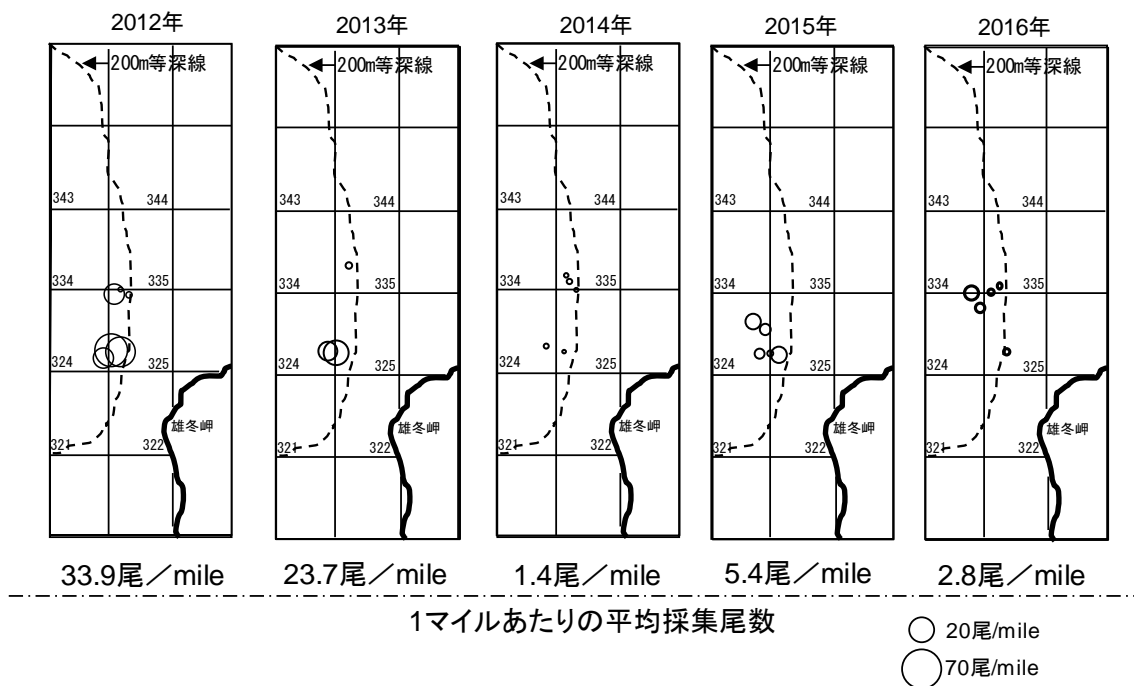


図1 9月トロール調査による採集尾数

2. ハタハタの魚体と年齢 (図2)

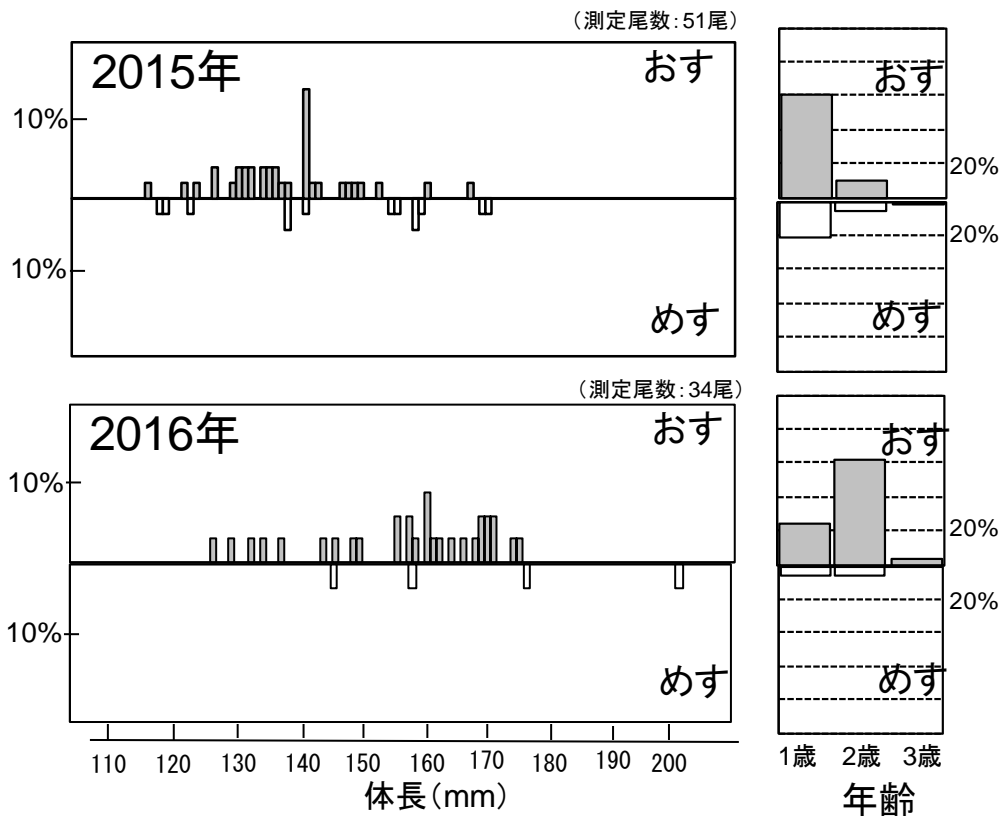


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
上段図：昨年（2015年）調査 下段図：今回の調査

今年についても、この時期の調査ではまだ雌の採集がほとんどありませんでしたが、雌雄あわせた年齢の内訳では2歳魚（2014年級）が約68%を占めました。これは昨年、1歳魚として久しぶりの漁獲増をもたらした2014年級の生き残りであり、今期の資源は昨年よりは魚体の大きな2歳魚が主体となる見込みです。一方、1歳魚（2015年級）はまだこの時期には雄冬沖に分布していない可能性もあるため、今後の調査結果を踏まえる必要がありますが、昨年0歳期には各調査でほとんど採集がないことから、今のところ見込み薄の状況です。

3. 成熟状態 (図3)

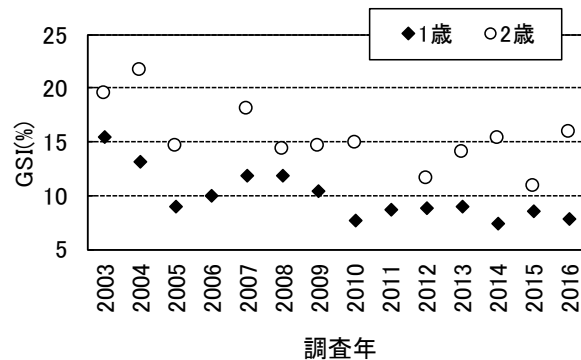


図3 毎年9月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40前後の値となります。今回得られた標本のうち成熟状態にある雌個体のGSIに基づき、これまでの調査結果と対比するため9月末時点の値として推定しました。今季の主体とみなした2歳魚の成熟状態は図からはやや高めに見て取れますが、標本数が2尾のみと少ないため、今回の調査結果から成熟の進行具合や沿岸来遊時期を判断するのは困難です。次回10月のトロール調査結果に基づき改めてお知らせする予定です。

4. 水温（図4）

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖（321漁区北側～325漁区南側の範囲）の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去5年の平均値と併せて示しました。

過去5年は表層水温が特異的に高くなる年があり、これと比べると表層はやや低めで、水深25m付近に躍層が発達しており、それ以深では過去5年よりやや低めの水温となっていました。

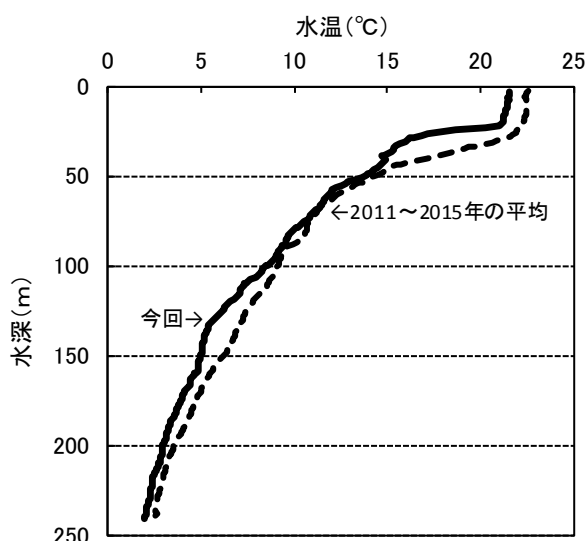


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

次回の北洋丸によるトロール調査は、10月中～下旬に雄冬沖のハタハタ分布域を含む海域で、ニシン、スケトウダラの分布調査を兼ね実施する予定です。例年のことではございますが、付近の海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。